
ゾウのお医者さん

竜太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゾウのお医者さん

【Nコード】

N4100H

【作者名】

竜太郎

【あらすじ】

散文です。あらすじを書くほどありません。ちょっと生き抜き程度に読んでいただけると幸いです。

「おとうさん。耳の中でピーって音がする」

新聞を読んでいた私は三歳になる娘を見た。その顔は真剣で自分の体に起きた異変を察知して本能が危険だと判断しているようだ。

「たぶん中耳炎だね」

幼稚園ではプールが始まった。日を追うごとに肌黒く日焼けしていく娘が毎日たくましく成長していくようで嬉しかった。

「ちゅういえんって何？」

幼稚園の年少組みで、初めての友達ができて、色々な言葉を覚えてくる娘も未だ中耳炎という言葉は習ってこないようだ。娘を膝の上に抱きかかえる。

「ち・ゆ・う・じ・え・ん。お耳の中に水が入るお病気。」

「お耳の中のみじゅが、ピーってなるの？」

娘はくさすせそゝが上手く発音できない。医者の見立てでは舌が短いのだそうだ。妻はこのままではいじめの対象になると必死に矯正に取り組んでいるが、当の娘はそんなどこ吹く風で毎日楽しく幼稚園に通っている。

「うゝん。お水がピーってなるんじゃないだよ」

「だってピーってなってるモン。お父さんもきいてよ。」

娘は自分の耳を引っ張って私の耳に近づけてきた。

「ほら、ピッって聞こえるでしょ」

聞こえるわけが無い。

娘は馬鹿馬鹿しいほどに真剣だ。しかし、聞こえないものを聞こえるともいえない。

「どうしたの？」

妻がやってきた。

「お耳の中でピーって音がするの？」

妻は台所で私と娘の話を聞きつまんでいた様だ。妻と娘と同じ顔が

二つ。耳をそろえて並んだ。

「本当ね。お耳の中で音がするね。」

いとも簡単に娘の耳鳴りが妻には聞こえたらしい。

「じゃあ、これからゾウさん先生の所に行こうか？」

「象さん先生？」

聞き返したのは私だ。

「そつよ耳の大きなゾウさん先生」

象の医師がいるわけない。

(後書き)

元ネタはラジオ番組でパーソナリティーが語っていたものです。ちよつと小説っぽくしてみました。

読んでいただきありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4100h/>

ゾウのお医者さん

2010年12月18日03時10分発行